

自然観察 NOW

NO : 50

野幌森林公園自然情報

発行 : 2020年9月5日

北海道ボランティア・レンジャー協議会

ホームページ <http://voluran.com/>



9月に入り植物は、次世代への引継ぎの準備を取り急ぎ進めており、スミレ・エンレイソウ・イネ科など完熟な種子も多く見られる季節を迎えています。この種子が来年には、どのように世代を引き継ぐか知するために、植物の生活史と繁殖型について調べてみました。

生活史と繁殖型による分類

分類型	植物例	特性
1年生植物	ミゾソバ、ヤブマメ	環境適応性の種子の生産可能
2年生植物	アケボノソウ、フデリンドウ、メマツヨイグサ	初秋後は、完熟種はやや少ない
1回繁殖型多年生植物	オオウバユリ	開花結実までの期間は長い
多回繁殖型多年生植物	マムシグサ、サラシナショウマ、ミズヒキ	生育・繁殖とも安定に継続
栄養繁殖系多年草植物	オオハンゴンソウ、セイタカアワダチソウ	種子と栄養系とも繁殖可能

オオウバユリ (大姥百合) ユリ科ウバユリ属 一回繁殖型の多年草

芽出から3~4年は一枚葉で経年成長し、地下部(鱗茎)の肥大成長とともに2枚、3枚とロゼット葉の枚数を増やし、その後4枚から8枚葉で100cm以上にも茎を伸ばし、子孫を残すため、10年ほど鱗茎に蓄えた栄養を花茎・花・果実に使って一生を終える。一果実に600個ほどの種子を生産。



1葉のオオウバユリ

枯れた百合根には幾つかの娘鱗茎(百合根の子供達)が育成されており、種子よりも早く大きく成長し、3年ほどで花を咲かせる個体となる。

北海道の先住民族のアイヌはオオウバユリの百合根をトゥレブと呼び、保存食などに利用した。



娘鱗茎から成長の様子

マムシグサ (蝮草) サトイモ科テンナンショウ属 多回繁殖型の多年草



生活史: 種子が発芽後、栄養成長を経年後に「雄個体」で生殖成長を開始し、その後地下部の栄養資源が豊富な年は「雌個体」、蓄えが少ない年は「雄個体」の性転換を可逆的にする多様性を有する雌雄異株の多年草。今年マムシグサが多く観察された。全草にサポニンなどの毒を含むが、アイヌ民族は塊茎を焼いて、中心の黄色の部分を除き摂取したとのことですが、決して試食はしないことが賢明。



アケボノソウ (曙草) リンドウ科センブリ属 2年生植物



和名の由来:花冠の斑点を夜明けの星空に見立てたことに由来する。夏までには開花するフデリンドウ、メマツヨイグサなど他の2年草と異なり晩夏から初秋に開花するため結実が遅く、かつ種子粒径1mmで当年の発芽環境は極めて不良で、加えて当公園では多湿な遊歩道で生育する個体も見られ歩道確保の犠牲になることもあり、大きな集団は見られない。府県では絶滅危惧種に指定されている地域もあり、貴重な植物で大切に见守りたい植物の一つである。



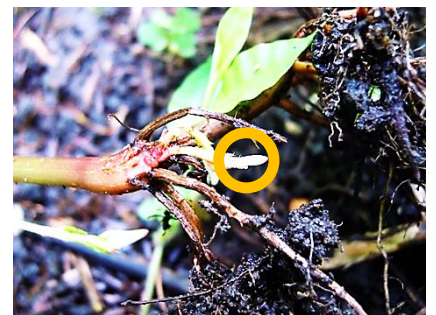
バッタカビ: アケボノソウの頂上でバッタが死亡している事例が2016年にモミジコースで見られた。バッタはカビに神経系を操られ、手近な高みに登り、息絶える。カビが遠くまで胞子を飛ばせるよう、バッタの行動をコントロールしているのだと言われる。

カビに寄生され枯死したバッタ

ミゾソバ (溝蕎麦) タデ科タデ属 1年生植物



葉の形が牛の額にも見えることからウシノヒタイ (牛の額) という別称もある。1年生植物であるが耐湿性を有し、植生の中でも存在感がある。発芽が早く開花・結実までは長期間を要することで充実した草体を形成し、開花期は晩夏から初秋で、茎の先端で枝分かれした先に、根元が白く先端が薄紅色の多数の花を咲かせる。



地中の閉鎖花: ブログ「円山原始林ブログ」元ボラレン会員大藤氏から引用

ミゾソバの花が見頃となる時期、地中に閉鎖花も付着する。

サラシナショウマ (晒菜升麻) キンボウゲ科サラシナショウマ属 多回繁殖型多年生植物

公園で生育する4升麻の中で、最も早く芽生えるが開花が遅く、長く観察を楽しめる。開花時には多数のクチナガガンボが花に群集する。時には「謎の蝶 (アサギマダラ)」も訪花する。9月末の(瑞穂連絡線の)サラシナショウマとヨツバヒヨドリの群落が観察スポットだそうである。



アサギマダラが訪花 (室野文男氏撮)

アサギマダラ: 日本と台湾の間の2000kmを超える移動が確認されている謎の蝶。

参考文献: ボラレン季刊誌「エゾマツ 2019 冬季号」アサギマダラ (成瀬氏)、ブログ「円山原始林ブログ」元ボラレン会員大藤氏、植物生態学 (大原雅) 海游舎、Wikipedia

◎北海道ボランティア・レンジャー協議会主催及び自然ふれあい交流館との共催の観察会は、今年度はすべて休止。

文責: 三井 茂